

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 早稲田大学

## 【構想の名称】(タイプA-Ⅱ)

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

## 【構想の概要】

早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム(セメスター交換留学、サマー/ウィンター・スクール、ダブル・ディグリー・プログラム)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

### 高度な専門性を持った人材育成

本構想の目的は、アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

〈2020年 東アジア大学院開設〉



## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### 1 共同研究

アジア地域統合に関する共同研究を実施し、その成果を基に学術雑誌Asian Regional Integration Reviewおよび研究叢書を刊行し、アジア地域統合プログラムのテキストとして使用する。

### 2 教職員合同会議

単位互換・成績管理、そして学位授与に至るまでのプロセスを整備するため、早稲田大学と4大学との間で協定を締結する。また、5大学が一堂に会する教職員合同会議を年2回開催し、定期的にプログラム運営方針や教育内容を協議する場を持つ。

### 3 ACTS

ASEAN Credit Transfer Systemを活用し、大学院レベルの単位互換制度を確立する。

### 4 評価委員会

外部の第三者評価委員会によって、事業成果を検証し、助言を得る。

### 5 教職員

アジア地域統合に関する授業科目を提供し、共同研究の中心的役割を担う教員、ならびにダブル・ディグリー・プログラムの開発、学生交流を担当する職員を新たに雇用する。4大学からは交換教員の相互派遣・受入を行う。

〈早稲田大学北京事務所〉



## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ホームページによる情報公開と他大学へのプログラムの開放

プログラムの成果はすべてホームページを通じて公開する。また、EAUIには、大学院学生交流連盟(東京大学・京都大学・慶応義塾大学・早稲田大学)大学院生にも参加対象を広げ、海外の大学としてはASEANの主要大学をはじめ、Universitas 21やAPRU加盟大学へも段階的に広げていくことを目標としている。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1 日本人学生の派遣

セメスター制度整備。ウェブサイトによる参加大学のカリキュラムの公開。海外オフィス(北京、バンコク、シンガポール)による生活面でのサポート体制。稲門会を通じたインターンシップ・プログラムの提供および就職支援。

### 2 留学生の受入

日英2言語対応。プログラムに応じた学籍(委託科目等履修生もしくは外国人特別研修生/正規生)。約900名収容可能な学生寮が竣工予定。指導教員・アカデミックアドバイザー・RA・TA・職員・既存機関が教育・研究面・生活面・就職をサポート。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1 日本人学生の派遣

初年度はプレ・プログラムで海外の4大学へ学生を5名ずつ派遣する。2年目以降は、セメスター留学として海外4大学へ学生を各大学5名(3年目より年間10名×4大学)、およびウィンター・スクールで毎回5名を派遣する。

### 2 外国人留学生の受入

サマー/ウィンター・スクールで各大学5名(合計20名)、セメスター留学で各大学から5名(3年目より年間10名×4大学)の留学生を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣(短+秋/春)	20+0	5+20	5+40	5+40	5+40
学生の受入(短+秋/春)	20+0	20+20	20+40	20+40	20+40

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 早稲田大学

## 【構想の名称】(タイプA-Ⅱ)

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

## 【構想の概要】

早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム( Semester 交換留学、サマー/ウィンター・スクール、ダブル・ディグリー・プログラム)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1 学生交流協定(MOU)締結内容に合意

パートナー4大学への個別訪問、教職員合同会議(2日間)、バイラテラル会議などを通じ学術交流協定(MOU)の内容について合意した。既にMOUが存在する大学とは本構想に関わる補則を定めることとし、その内容についても合意した。

### 2 第一回教職員合同会議の開催

5大学合同の第一回教職員会議を開催し、24年度以降実施の協定締結、学生交流、単位互換、成績管理、カリキュラム、交換教員、共同研究など基本的枠組みを協議した。

### 3 パートナー4大学とのバイラテラル会議の実施

合同教職員会議に加えて、パートナー4大学と本大学との間でバイラテラル会議を実施し、二校間で発生する個別の案件(学期・休暇期間の整合性、出願の方法・期限、授業科目や登録可能範囲、成績・単位認定、宿舎等)について協議を行った。

〈第一回教職員合同会議〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第一回ウインター・スクール〉



### 1 プレ・プログラム(学生派遣)の実施

パートナー3大学に教員、大学院生を派遣し、共同ゼミやレクチャー、フィールドトリップなどを実施し、大学院生間の学生交流を深め、アジア地域統合について議論した。

### 2 ウィンター・スクール(学生受入)の実施

第一回ウインタースクールを本学において開催し、パートナー4大学から教職員および大学院生が参加した。全てのパートナー大学の教員が講義を担当し、学生同士がアジア地域統合について議論を深め、それぞれの考え方を学ぶ機会となった。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1 日本人学生の派遣

プレ・プログラムでは高麗大学に5名、ナンヤン工科大学に9名、タマサート大学に5名の本学学生(留学生を含む)を派遣した。本プログラムの実施により本構想の認知度が学生間で高まり、24年度以降の Semester 留学につながることを期待される。

### 2 外国人留学生の受入れ

ウインター・スクールでは高麗大学、ナンヤン工科大学、北京大学、タマサート大学それぞれから5名、計20名の学生を受け入れ、講義、プレゼンテーション、フィールドトリップを11名の本学大学院生とともに行った。短期間での告知にもかかわらず、大学によっては申し込みが10倍を越えるほどの関心があった。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣(短+秋/春)	19+0	5+20	5+40	5+40	5+40
学生の受入(短+秋/春)	20+0	20+20	20+40	20+40	20+40

注) H23は実績、H24以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1 日本人学生の派遣

キャンパス・アジア事務局を設置し、バイリンガルのスタッフを配置。プレ・プログラム実施時の渡航や査証申請手続きを支援。また、出発前の事前説明会を実施した。24年度の Semester 留学の説明会を2回実施、ウェブサイトでも広報を行った。

### 2 留学生の受入

ウインター・スクールの実施に際し、キャンパス・アジア事務局が渡航や査証申請を支援。講義をはじめ全てのプログラム内容を英語で実施し、本プログラムで採用されたTA(日本人・留学生)がきめ細かく受け入れ学生の滞在をサポートした。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ホームページによる情報公開と各種報告書による教育内容の可視化

プレ・プログラム、ウインター・スクール、教職員会議についてその内容と成果について報告書を作成し、関連する箇所に配付した。また、プレ・プログラム、ウインター・スクールについてはその内容をホームページで公開している。また、教職員会議、バイラテラル会議の成果である学生の交流に関する各種条件を定めたFACT SHEETもホームページ上で公開している。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 早稲田大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

## 【構想の概要】

早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム(セメスター交換留学、サマー/ウインター・スクール、集中講義)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1 学生交流協定(MOU)締結、アジア地域統合のための科目の設置

パートナー4大学全てと学生交流協定(MOU)を締結した。また、アジア地域統合のための科目を4専門分野×4テーマ=16のマトリクスに参加5大学それぞれが配置することにより、各大学の強みと特徴のある分野を交換留学生に対して明示的に示すことが可能になった。

### 2 合同教職員会議、バイラテラル会議、サマー/ウインタースクール組織委員会の実施

5大学合同の教職員会議(計4日)、バイラテラル会議、サマー/ウインタースクール組織委員会を開催し、科目、成績管理、ジョイント・サーティフィケートなど基本的枠組みを協議した。

### 3 欧州における国際的な共同大学院の設置に関する実地調査

本構想がモデルとする欧州大学院(EUI)、カレッジ・オブ・ヨーロッパ(COE)へパートナー大学と合同のミッションを派遣し実地調査と意見交換を行い、国際的な共同大学院の設置に関する具体的なプロセスについて理解を深めた。



〈第三回合同教職員会議於ナンヤン工科大学〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈第二回ウインタースクール 於ナンヤン工科大学〉

### 1 サマー/ウインタースクール、キャンパス・アジア集中講義(派遣・受入)の実施

第1回サマースクールを本学で、第2回ウインタースクールをナンヤン工科大学で開催し、5大学から教職員および大学院生が参加した。全大学の教員が講義を担当し、学生同士が議論を深め、互いの考え方を学ぶ機会となった。また、2大学の学生が参加する集中講義を北京大学(派遣)、タマサート大学(受入)との間で実施した。

### 2 セメスター交換留学(派遣・受入)の実施

本構想による交換留学の第一期生の派遣・受入を実施した。全5大学の学生が本大学およびパートナー4大学において4専門分野×4テーマのマトリクスに配置された科目を中心に履修し、講義や討論を通じてアジア地域統合への理解を深めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1 早稲田大学学生の派遣

交換留学では高麗大学に2名、ナンヤン工科大学に2名、北京大学に1名、タマサート大学に2名の本大学学生を派遣した。また、ウインタースクールでナンヤン工科大学に14名、キャンパス・アジア集中講義で北京大学に5名の学生を派遣した。

### 2 外国人留学生の受入れ

交換留学では高麗2名、ナンヤン工科2名、北京4名、タマサート1名を受入れ、サマースクールでは4大学それぞれから6名、計24名の学生を受入れた。また、本学で実施した集中講義にタマサート大から7名受入れ、ナンヤン工科大でのウインタースクールに3大学計15名を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	19	26	45	45	45
学生の受入	20	40	60	60	60
他大学間移動		15	15	15	15

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1 早稲田大学学生の派遣

キャンパス・アジア事務局を設置し、バイリンガルのスタッフを配置。早稲田大学学生の派遣に際し、渡航や査証申請手続きを支援。また、出発前の事前説明会を実施した。セメスター留学の説明会を2回実施、ウェブサイトでも広報を行った。

### 2 留学生の受入

留学生の受入れに際し、キャンパス・アジア事務局が渡航や査証申請を支援。講義をはじめ全てのプログラム内容を英語で実施し、本プログラムで採用された助教2名とTA(日本人・留学生)がきめ細かく受入れ学生の滞在をサポートした。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ホームページによる情報公開と各種報告書による教育内容の可視化、新聞紙面によるEAUI構想の広報、評価委員会実施

サマー/ウインタースクール、ワークショップ、教職員会議についてその内容と成果について報告書を作成し、関連する箇所に配付した。また、ホームページ上でも公開した。あわせて本大学の設置科目については4専門分野×4テーマのマトリクスに配置したものを公開している。また、本構想の事業概要を新聞2紙で全面広告を行い、広く社会一般にその意義を周知した。さらに、第1回評価委員会を開催し、産業界、国際機関、学術機関から選出された6名の外部有識者による成果の検証を受けた。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

【構想の概要】早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム(セメスター交換留学、サマー/ウィンター・スクール、集中講義)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(第2回サマースクール 於 早稲田大学)

### 1. プログラム修了認定制度の整備

プログラム修了認定証発行のための制度を完成させ、2014年3月修了生に対して、認定証を発行し、複数大学間で発行するジョイント・サーティフィケート発行にむけての基盤整備を行った。

### 2. 合同教職員会議の実施

計2回の合同教職員会議を開催し、ジョイント・サーティフィケート制度、サマー/ウィンタースクールの質的改善、プログラムの将来像、共同教育プログラムの開発等について5大学の教職員で協議した。

### 3. 共同教育プログラム開発の検討

従来型の留学プログラム・対面型授業を補完するツールとして、オンデマンド形式の講義画像を共同開発することについて、5大学間で協議を開始し、具体化に向けての準備に着手した。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(第2回サマースクール 於 早稲田大学)



### 1. サマースクール、キャンパス・アジア集中講義、高麗大学短期派遣プログラムの実施

第2回サマースクールを本学で開催し、5大学から教職員及び大学院生が参加した。全大学の教員が講義を担当し、学生同士が議論を深め、互いの考え方を学ぶ機会となった。また2大学の学生が参加する集中講義を高麗大学(派遣)、ナンヤン工科大学(受入)との間で実施した。バンコク政情不安に伴うタマサート大学での第3回ウィンタースクールの中止を受け、急遽高麗大学への短期派遣プログラムを実施した。

### 2. セメスター交換留学(派遣・受入)の実施

セメスター交換留学プログラムによる学生の派遣・受入を実施した。全5大学の学生が本大学およびパートナー4大学において4専門分野×4テーマのマトリクスに配置された科目を中心に履修し、講義や討論を通じてアジア地域統合への理解を深めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣 ※( )内は外国人留学生

交換留学ではナンヤン工科大学に4名(1名)、北京大学に2名の本学学生を派遣した。また、キャンパス・アジア集中講義で高麗大学に6名(5名)、高麗大学への短期プログラムで14名(8名)の本学学生を派遣した。フィールドワークを目的に計2名(1名)の本学学生をそれぞれナンヤン工科大学、タマサート大学に派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

交換留学では高麗6名、ナンヤン工科大学8名、北京大学7名、タマサート大学3名を受入れ、サマースクールでは4大学それぞれから5名、計20名の学生を受入れた。また本学で実施した集中講義にナンヤン工科大学から5名を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	19	26	28	45	45
学生の受入	20	40	49	60	60
他大学間移動		15	※	15	15

注) H23~H25は実績、H26以降は計画。

※バンコク政情不安に伴うウィンタースクール中止により実施せず。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 日本人学生の派遣

入試広報媒体・イベントで当研究科入学前の日本人学生に対してプログラムの広報を行い、出願時にプログラム参加希望に関するアンケートを取ることで、入学前から留学に対する動機づけを図った。セメスター交換留学において日本人学生の留学機会を拡大するため、英語以外の現地公用語(中国語、韓国語、タイ語)での科目履修を可能とし、セメスター交換・短期プログラムを当研究科以外の研究科の学生に広

### 2. 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入れに際しては、キャンパス・アジア事務局が渡航手続きや宿舍手配をサポートし、本プログラム専任の助教2名がセメスター交換で受入れる外国人留学生専用のチュートリアルやフィールド・トリップを実施し、学業面でのきめ細やかなサポートを行った。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 国際シンポジウムの開催、参加学生による学外発表、外部媒体を通じての成果の普及、ホームページ上での公開

独立行政法人国際交流基金の助成を受け、日・ASEAN友好協力40周年記念事業と連携し、サマースクールの一環として、ASEAN諸国の研究者を招聘し、国際シンポジウムを行い、本事業の成果を広く学外に発信した。文部科学省主催の「ASEAN+3高等教育質保証フォーラム」でキャンパス・アジア事業についての事例発表を行った当研究科学生が、タイでの国際学会でキャンパス・アジア事業についての発表を行い、海外に向けて本事業の成果を発信した。当研究科教員がサマースクールの成果を国内主要新聞に寄稿し、シンガポール主要中文紙に掲載されたナンヤン工科大学のウィンタースクール参加者の記事をホームページでの公開のため英訳した。プログラムの活動内容は随時ホームページ上で公開している。

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

【構想の概要】早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム( Semester 交換留学、サマー/ウィンター・スクール、集中講義)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈第3回ウィンタースクール於早稲田大学〉

### 1. プログラム修了認定制度の整備

本研究科とパートナー大学2校間での連名による「EAUIプログラムジョイント・サーティフィケート」制度を導入し、当研究科の平成27年3月修了生1名に対して第1号を交付した。

### 2. 合同教職員会議の実施

計2回の合同教職員会議を開催し、ジョイント・サーティフィケート制度、サマー/ウィンタースクールの質的改善、プログラムの将来像、共同教育プログラムの開発等について5大学の教職員で協議した。また、助成期間終了後の5大学ネットワーク発展のためのEAUI Steering Committee発足につき、合意した。

### 3. 共同教育プログラム開発

従来型の留学プログラム・対面型授業を補完するツールとして、パートナー大学と共同で講義動画の収録を行った。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第3回ウィンタースクール於早稲田大学〉



### 1. サマースクール、ウィンタースクールの実施

第3回サマースクールを韓国高麗大学にて、第3回ウィンタースクールを本学にて開催し、5大学の教職員及び大学院生が参加した。学生は全大学の教員が担当する講義を受け学生同士の議論を深め、互いの考え方を学ぶ機会を得た。また、同スクール期間中には国際シンポジウムが開催され、学生は専門家のプレゼンテーションスキルを学び、最終日には5大学混合グループで5日間の集大成を発表した。

### 2. セメスター交換留学(派遣・受入)の実施

セメスター交換留学プログラムによる学生の派遣・受入を実施した。全5大学の学生が本学およびパートナー4大学において4専門分野×4テーマのマトリクスに配置された科目を中心に履修し、講義や討論を通じてアジア地域統合への理解を深めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1. 日本人学生の派遣 ※( )内は外国人留学生  
交換留学ではナンヤン工科大学に7名(5名)、タマサート大学に5名(3名)の本学学生を派遣した。フィールドワークを目的に1名の本学学生をタマサート大学に派遣した。また韓国でのサマースクールには15名(14名)の本学学生を派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

交換留学では高麗1名、ナンヤン工科大学5名、北京大学3名、タマサート大学3名を受入れ、ウィンタースクールでは4大学それぞれから8名、計32名の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	19	26	28	28	45
学生の受入	20	40	49	44	60
他大学間移動		15	※	15	15

注)H23~H26は実績、H27は計画。

※バンコク政情不安に伴うウィンタースクール中止により実施せず。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 日本人学生の派遣

入試広報媒体・イベントで当研究科入学前の日本人学生に対してプログラムの広報を行い、出願時にプログラム参加希望に関するアンケートを取ることで、入学前から留学に対する動機づけを図った。セメスター交換留学において日本人学生の留学機会を拡大するため、英語以外の現地公用語(中国語、韓国語、タイ語)での科目履修を可能とし、セメスター交換・短期プログラムを当研究科以外の研究科の学生に広く開放した。

### 2. 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入れに際しては、EAUI事務局が渡航手続きや宿舍手配をサポートし、本プログラム専任の助教2名がセメスター交換で受入れる外国人留学生専用のチュートリアルやフィールド・トリップを実施し、学業面でのきめ細やかなサポートを行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### 国際シンポジウムの開催、参加学生による学外発表、ホームページ上での公開

当プログラム事業はホームページにて適宜公開している。年に2回アジア地域統合・地域協力に関する国際シンポジウムを開催しているが、協定校以外からも研究者を招聘することにより、プログラム構想の周知に努めている。2014年8月にトルコで開催された国際学会においてEAUIプログラムより派遣された学生1名が同プログラムについての発表を行い、日本国内のみならず、「大学の世界展開力強化事業」の効果及び課題を広く国外にアピールし、同事業の広報活動に大きく貢献した。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

【構想の概要】早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム( Semester 交換留学、サマー/ウィンター・スクール、集中講義)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈第4回ウィンタースクール〉

### 1. プログラム修了認定制度の整備

本研究科とパートナー大学2校間での連名による「EAUIプログラムジョイント・サーティフィケート」を合計14名(本学学生4名、パートナー大学学生10名)の学生に交付した。

### 2. 合同教職員会議の実施

計2回の合同教職員会議を開催し、ジョイント・サーティフィケート制度、サマー/ウィンタースクールの質的改善、プログラムの将来像、共同教育プログラムの開発等について5大学の教職員で協議した。また、助成期間終了後のプログラム運営方針・体制についての具体的協議を進展させた。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈第4回ウィンタースクール〉



### 1. サマースクール、ウィンタースクールの実施

第4回サマースクールを中国北京大学にて、第4回ウィンタースクールを本学にて開催し、5大学の教職員及び大学院生が参加した。学生は全大学の教員が担当する講義を受け学生同士の議論を深め、互いの考え方を学ぶ機会を得た。また、同スクール期間中には国際シンポジウムが開催され、学生は専門家のプレゼンテーションスキルを学び、最終日には5大学混合グループで5日間の集大成を発表した。

### 2. セメスター交換留学(派遣・受入)の実施

セメスター交換留学プログラムによる学生の派遣・受入を実施した。全5大学の学生が本学およびパートナー4大学において4専門分野×4テーマのマトリクスに配置された科目を中心に履修し、講義や討論を通じてアジア地域統合への理解を深めた。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1. 日本人学生の派遣 交換留学ではナンヤン工科大学に4名、タマサート大学に8名、北京大学に1名の本学学生を派遣した。また中国でのサマースクールには20名の本学学生を派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

交換留学では高麗4名、ナンヤン工科大学7名、北京大学3名、タマサート大学2名を受入れ、ウィンタースクールでは4大学から合計計27名の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	19	26	26	27	33
学生の受入	20	40	49	44	43
他大学間移動		15	※	15	15

※バンコク政情不安に伴うウィンタースクール中止により実施せず。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 日本人学生の派遣

入試広報媒体・イベントで当研究科入学前の日本人学生に対してプログラムの広報を行い、出願時にプログラム参加希望に関するアンケートを取ることで、入学前から留学に対する動機づけを図った。セメスター交換留学において日本人学生の留学機会を拡大するため、英語以外の現地公用語(中国語、韓国語、タイ語)での科目履修を可能とし、セメスター交換・短期プログラムを当研究科以外の研究科の学生に広く開放した。

### 2. 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入れに際しては、EAUI事務局が渡航手続きや宿舍手配をサポートし、本プログラム専任の助教がセメスター交換で受入れる外国人留学生専用のチュートリアルやフィールド・トリップを実施し、学業面でのきめ細やかなサポートを行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### 国際シンポジウムの開催、参加学生による学外発表、ホームページ上での公開

当プログラム事業はホームページにて適宜公開している。年に2回アジア地域統合・地域協力に関する国際シンポジウムを開催しているが、協定校以外からも研究者を招聘することにより、プログラム構想の周知に努めている。「日経ビジネス」(オンライン版含む)と「日経Woman」に東アジア大学院(EAUI)構想についてプログラム参加者(本学在学学生、本学修了生、高麗大学・北京大学・タマサート大学からのセメスター交換留学生)が語りあう座談会形式の広告記事を掲載し、「大学の世界展開力強化事業」の効果及び課題を広くアピールし、同事業の広報活動に大きく貢献した。